

令和6年度 第1回利根町総合振興計画審議会 議事要約

【日 時】 令和6年4月19日（金） 午後2時～午後4時

【場 所】 利根町役場 4－A会議室

＜配布資料＞

- ・ 会議次第
- ・ 委員名簿
- ・ 【資料1】 第5次利根町総合振興計画後期基本計画策定に関する各種調査結果報告
- ・ 【参考資料1】 アンケート調査結果
- ・ 【参考資料2】 ワークショップの実施報告
- ・ 【参考資料3】 令和5年度第2回利根町総合振興計画審議会におけるご意見とその対応

【出席者】 坂野会長，山口副会長，長瀬委員，石山委員，川村委員，長嶋委員（代理出席 須澤様）

猪瀬委員，直井委員（代理出席 石井様），花嶋委員，渡邊委員，山内委員，江幡委員，
赤根委員，鈴木委員

【事務局】 布袋課長，渡辺課長補佐，生井係長，五十嵐係長，清水会計年度任用職員

【コンサルタント】 色川氏，山添氏，宮地氏

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

（1）各種調査結果報告

会 長： 早速議事を進めたいと思います。議事「（1） 行政評価による評価結果について」ですが，本日のご説明は，コンサルタント事業者の株式会社都市環境計画研究所様からご説明いただくということになっております。それでは株式会社都市環境計画研究所様，よろしくお願いいたします。

コ ン サ ル： ≪資料に基づき説明≫

会 長： 説明が終わりました。何かご質問はございませんか。

委員： 参考のために教えていただきたいことがありまして。資料の7ページ。図の読み解き方というんですかね。そういうのを私も勉強したいので。重要度と満足度の交差する散布図。左上が重要な最優先改善でいいんですよね。

コンサル： そうです。

委員： 右上が町の強みなので、維持するところっていうふうに考えてよろしいでしょうか。

コンサル： はい、そうです。そのように考えて大丈夫です。

委員： 左下と右下は、例えばこれと同じようにどうするとか、どういう評価をする場所なのか。左下は重要性が低くて満足度が低いとか、あと右下の方はどういうふうな場所っていうのが4種類あるわけで。下の二つはどんなふうな言い方とかを専門家の方はされているんでしょうか。

コンサル： 満足度の高い低いがありますが、重要度が低い方をどうするかっていう理解でよろしいですか。

委員： そうです。

コンサル： 例えば一般的に下水道なんか整備されると重要度は低くなったり、整備されていないと重要度は高くなったりするんですが、5年後なんか見ると、改めてゼロベースになって変化する形で、重要性については結構年度によって変わってきます。今回5年間の中で必要なもの、重要度の高いものはこれでしょうという形で、逆にこの下の重要度が低いものについては、満足度が低いものについては、できるだけ満足度が高いところに移行しなきゃなりませんねってことが見えるということだと思います。

委員： もう少しお聞きしたいのですが、(グラフの) 左下のが右下とか、右上に行くような課題の抽出っていうのをしているということですかね。

コンサル： そうなります。

委員： 分かりました。ありがとうございます。

会長： 他にご質問ございますでしょうか。せっかくですから住民の意見、あるいはアンケートに基づくもので何かご興味等ございましたらお願いします。

委員： 意見ではないのですが、7ページの下の表を見ていて思ったのですが、例えば「区や自治会などの地域活動の活発化」っていうのは、実際には重要だとあまり思われていないのかなって。残念な思いがするんですが。自分は実際に自治会の活動に関わっているので、なかなか動かない部分があって何とかしたいなと思っている方なんですが、この結果を見ると、残念だなっていうのが一つと、人権教育とか人権啓発の推進とかって大変重要なことかなと思っているんですが、普段そんなふうに意識される方は少ないのかなと。やはり啓発としても非常に大事なことはないのかなっていう。結果は結果として受け止めるとして、そんなことも感じました。多様なタイプの方もたくさん入っていらっしゃるし、もちろん老人の方も沢山いらっしゃると思うんですけど、多様な人がそれぞれ認められるような社会にしていかなくてもならないと思っているんですが、利根町もそれに直面しているんじゃないかなと思うので、もうちょっと関心を持っていたいただいてもいいのかなって思いました。以上です。

会 長：ありがとうございます。特に利根町は魅力がアップしているので、住み続けたいって
いう方が16.3ポイント増えたというのは素晴らしいなと思います。なぜそういうにこ
とになったのかなっていうのも、本当はあったらいいかなと思ったんですけども。
他にご意見のある方いらっしゃいましたらお願いします。

委 員：はい。交通の話になりますが、以前、利根町で交通関係の話し合いをする会がコミュ
ニティセンターでありまして、参加したんです。町に住んでいる人たちのいろんな意見
が出てきた。交通に関しても、布佐と繋いでほしいという意見が非常に強く出ていた。
その会議の主催は町ですけれども、いろんな提案よくわかりましたと株式会社の方が
言って終わった。利根町みたいな鉄道と直結していない町の場合は、住みやすい環境の
ためにJRを入れるのがあります。僕らのイメージする国鉄ですよ。国鉄とくつつく
のは絶対だと思います。私が利根町に移住した時、郵便番号が300ではなく、ここは
千葉県だと思った。成田線に郵便電信が走っていた時代の名残で、利根町の郵便局に來
る郵便は当時布佐から持ってきた。だから204だったらしいんですね。それはしょう
がないからいいんだけど、いろんなところを繋がる、これは絶対だろうなと思います。
僕はもうこの後10年、15年したら、どうやって買い物とかに行くんだろうってすご
く不安です。だから、そういうのは絶対だろうなと。こういうのに参加したいなと思っ
たのはその辺があったからですよ。健康にいられるかどうかわかんないけど、本当に
どうするんだろう。それから、例えばもっと嫌な老老事故っていうんですよ。80を
超えたお年寄りが、80を超えた方を轢いちゃう。払わなくちゃいけないんですよ。
でも、公共交通機関がちゃんとしていれば、そんなことしないで済む。金かかるかもし
れないけど、それはしょうがないなというふうに思います。

次に、いわゆる町の図書館との連携の話になりますが、現在私は学校図書館で勤務を
しているんですけども、その中でもやはり我孫子市民図書館との連携という話が出て
くるんですね。そこで僕が思っていることがあって、公立図書館と学校図書館は本質的
に立っている土俵が違います。学校図書館は学校図書館法という独立の法律があって、
その上に立ってやる。公立図書館はまた別ですよ。利根町はどういうふうにやってい
るかどうか知らないけれども、我孫子で見ていると、公立図書館が上で学校図書館が下
みたいな感じの連携になりつつあって、おかしいなと思いながらやっているんですけ
ど、その辺十分に考えてやった方がいいんじゃないかなと私は思っています。それとも
う一つは、部外の者に本を貸すっていう話ですね。この話は、実は20年ぐらい前から具
体的に言われ始めたことなんです。ちょうど2000年ぐらいの頃に、当時私が勤務してい
た勤務先の校長に言われました。まちの人に貸せないのか。いやちょっと待ってくださ
いって言って私は駄目にしたんですけどね。つまり学校の中に保護者が増えるのはもち
ろんOKなんです。でも、誰だか分からない人が入ってくるっていうのはいかななもの
かっていうのが当時の私の考え方だったんですね。私は実際に20年ぐらいそういうこと
やっていて、何となくがっかりですよ。外に貸すっていうのは、でもなかなか難し
い、考えなきゃいけないところがあるかな、なんてことを思ったりします。

会 長：どうもありがとうございます。事務局にご意見いただく前に一つお話しすると、やは
り小さい町だからできることがあるんだと。こういった意味ではきめ細かい教育も含め
て、行政サービスもできるということをお話から承りまして、私はそのように思いま
す。実際やっぱり少人数教育っていうのは、今どんどん公立でも30人学級というのも普
及してきていますし、そういう意味では、利根町だからできる行政サービス、あるいは
教育というのがある。だから頑張ってもらいたいというような、委員からのお話ではなかつ
たのかなというふうに思います。図書館等につきましては、もし事務局の方で何かあり
ましたら。

事務局： まず公共交通の関係を話をさせていただきますと、これまでいろいろな便を増やしたり、ふれあいタクシーの便を増やしたりなどの対策はしていたけれども、ここにある通り、満足度が低くて重要度が高い。昨年度から今年度にかけて公共交通計画を策定する方向で、昨年度はワークショップを開催しそこで様々な意見を同じようにお伺いし、住民アンケート調査も行いまして、これからどういうふうな路線にすれば、高齢者にとっても利便性の高い公共交通になるのかっていうところをもう一度まっさらな状態から作り上げていきたいというふうに考えております。

また、町民参加の機会の充実っていうところも満足度と重要度が低くなっていてまして、この重要度が上がるように、皆さんが参加していただけるように今年の3月の議会の方で、みんなのまち基本条例を改正しまして、推進委員会も設置してございますので、皆さま方が参加して、重要度が高くなるようにしていきたいと考えております。

図書館の関係で、学校図書館と町の図書館の連携というところにつきましては、議員の方からも話が出まして、様々なシステムが入ったりとかそういう部分で費用の方もかかることで、いろいろ検討しているではございますけれども、同じシステムを入れることによって、中学校の方とか小学校の方で無い本を学校の図書館の方から借りられるような形で連携できないかということで、今取り組みを始めているところでございますので、時期がいつになるのかというのは、はっきりしたことは言えませんが、そういうような形で取り組んでいきたいと考えております

会長： ありがとうございます。

副会長： 今のことに関連して。まず最初に交通の問題が出ました。布佐駅と繋ぐという問題が提示されました。私の住まいは布佐駅から距離があるので、あまり布佐駅っていうのは感じないです。つまり、利根町もエリアによってそれぞれ交通問題のニーズが違うなという気がしています。ですからアンケートをとった際に、交通が問題だと言ったときに、中身が異なっているんですね。一つは運行ルートについての不満、それからもう一つは本数、便数です。それから三つ目は料金。私の住まいから取手駅に行く場合、片道420円なんです。結構高い、往復840円。そうすると自分の車で行って、駅前の駐車場に1日止めて帰ってくるのと大体同じぐらいです。ですから、なかなかバスを使うメリットが感じられないということがあるんですね。これがもし半額とか、100円とかになれば、ものすごいインパクトがあるだろうなと思っています。最近週に半分東京の台東区のコミュニティバスに乗っているんですけど、めちゃくちゃ便利です。本数は1時間に3本ぐらいありますし、どこまで行っても100円。それから民間のバス会社に運行委託をしています。日立とそれから京成バスだったかと思うんですが、運転手がものすごく丁寧なんです。今から加速します。曲がりますからご注意くださいとか、ものすごく丁寧に、事故が起らないように案内があるということで、非常に気持ちよく乗らせていただいています。交通問題については今申し上げましたように、それぞれ中身が違うぞということがまず一つでございます。

それから、最初に団地の自治会の活動の活性化の重要度が低いという話がありました。私も役員をしています。非常に困っているところで、なんともう今年度から自治会は休会すると。最低限の活動はするんですが、役員会は休会するという事になっているんですね。住民の不満の上位の方にさっきの交通の問題とかですね、出てきてたわけですけども、マズローの欲求5段階説というのがありますよね。一番上位が自己実現の欲求とかで5段階ありますけれども、それに倣って住民の欲求というのを三つに分けることができるなということをこの今日の資料を読んでいて感じました。一番下の底辺にあるのが、生活の安全性とか、あるいは安定性です。インフラの安定性ですね。水道がきちっと供給されるとかですね。それから真ん中に来るのが利便性です。日常生活、さっき申しましたような、交通機関があるとか、近くにお店があるとかですね。そして一番上位にあるのがおそらくもっと精神的なもの、地域との繋がりとか。さっきの自治

会の問題の重要性が低下しているというのは、その住民の三角形の欲求の中で一番最上位にくるところだと思うんですね。従って下のところから順番に改善していかないと、多分精神的な満足あるいは社会的な満足というところになかなか至らないなど。ですから、団塊の世代の人たちが後期高齢者に入って、住民のニーズもどんどん変わっていく中で、アンケートを取ったときに結果として数字で出てくるのは自治会の活動、あんまり重要でないよと。それよりも日常生活の利便性とかいうところが出てきてるんじゃないかなという気がしています。それからもう一つだけ言わせていただきますと、住民の種類が変わってきてますよね。経営の言葉で言うと顧客のセグメントっていうんですかね。顧客を分類しますよね。女性で働いている方とか、子育て中の方とかいろいろ分類することができますが、その中で今利根町も、今日の資料にもまとめのところに書いてございましたけれども、新しい転入者の層が付け加えてきたというふうなことがありますので、そういう方たちに向けた魅力発信っていうふうなことを、長い目で見たときにはそこにお金を使うことは重要なことではないかなという気がしています。

もう一つ。地域の愛着が持てるというのが、住み続けたい理由の中の2番目に登場しています。地域の愛着って何だろうなと思って考えてみたが、結構難しいですね。何をすれば、どうなれば地域の愛着が高まるのかなと。そういうところを掘り下げていくことによって、逆に地域の魅力を気づかせてくれるんじゃないかなという気がいたしました。全体としては、住民の種類が多様化してきた中で、それぞれのセグメントごとにメリハリをつけた施策体系になればいいなと感じた次第です。以上です。

会 長： まとめていただきまして、ありがとうございます。

(2) 各種調査結果報告 本町を取り巻く状況等の分析

会 長： では次に行きたいと思います。議題の2 各種調査結果報告 本町を取り巻く状況等の分析というところでお願いしたいと思います。

コ ン サ ル： 《資料に基づき説明》

会 長： ご説明どうもありがとうございました。ご意見ご質問等ございますでしょうか。

委 員： よろしいですか。結構細かい数字が多く並んでいるので、なかなか情報の整理はできてはいないんですけれども。

一つ前の議題の中で利根町らしさについてがあったと思うんですけれども、今人口が減少していて、高齢化率も45%を超えてきている中で、ウェルネススポーツ大学のところがメインだと思うんですけれども、外国人の方々が増えているところも一つ利根町らしさとして加えることができるのではないかな。例えば大学で、ウェルネススポーツ大学に入った方が利根町で仕事をしていくとか、永住をするとなると、外国人の割合が増えていくかもしれないんですけれども、一つ利根町が活発になっていく要素として考えられるんじゃないかと。そういう可能性も利根町らしさとしてあるのではないかと思います。

会 長： ありがとうございます。今後川崎市のように外国人の方が増えれば、そういった多文化共生の条例とかができるかもしれませんが、ただウェルネスさんの状況にもよって違うと思いますので、これからを期待したいと思います。
その他いかがですか。

委 員： よろしいですか。やはり一つは老年人口が多いということと、あと若い15歳未満の方が少ないよねっていう。中間層はいないっていうのが一つ。産業に関しても、やはり働

き手がいなくなってくるっていうのは、産業に魅力がないのかなと思う。観光に関して、実際イベントがなくなると、しょぼんとなってくるよねと。そこら辺の問題点があると思っている。

会 長： ありがとうございます。そういう意味でも協働というのは大事かなとは思いますが、その他いかがですか。

委 員： よろしいですか。今回の子供たちのアンケートを見てびっくりしたんですけど、26ページ、中学生の112人のうち、41%が大学進学、43%が就職を機に転出する意向を有している。転出してしまう理由がよく分からないんですけど、84%の子供たちが転出してしまう予定だという。利根町から大学や就労先に通うことは考えていないんだと驚きました。公共交通を考えて、通いやすいような体制を整えることを考えていかないと、利根町に親だけが残る、やがて高齢者になり、夫婦のどちらかが亡くなったら、単身の高齢者ばかりになってしまう気がして心配です。

会 長： ありがとうございます。事務局の方から何かありますか。

事 務 局： 参考資料2の72・73ページは、ワークショップの中で出てきたものでございます。中学生が、30歳までの中で自分の人生としてどういうふうに進むか、自分の夢を実現するためのステップとして考えてみようという形で回答いただいた内容です。やはり利根町に住み続けながら夢を実現するというのではなく、やはり一回外に出ていくと子どもたちも思っているということなので、出ていった後、また戻ってくる形でできるか、もしくは町にいながら、自分たちの夢が実現できる手法は何なのかとか。この辺が町としてやるべき施策ではないか。こちらは中学生たちが実際に思っているものですので、これはリアルなデータとして、こういったものをベースにしながらどういった施策を考えていくべきかを示唆しているのではないかと思います。

会 長： ありがとうございます。学校図書館のこともありましたのでいかがでしょうか。

委 員： 今話が出ていたように、中学生の方も高校進学を考えたときに交通を一番考えているのかなという感じはします。どうしても学校の3分の1は取手松陽と竜ヶ崎南という、自転車を通えるところを選んでしまっている傾向です。先ほど地区の早尾と布川ともえぎ野ってありましたが、やはり布川地区の方はどちらかというとバスを使うよりも電車で行った方が安い。布佐駅を出て乗り換えて取手駅。そこから取手一高、取手二高、土浦方面と。逆に早尾の方はバスに乗って、取手駅まで行った方が早い。ただ値段は電車の方が安かったりする。金額の面も関わってきますし、住んでいるところによっても変わってくるので、中学生が一番車も使えないし自転車も使えないというところで、交通のこともよく考えながら進学先も考えているのが非常に顕著に表れているかなと。利根町に残りたいけれども、一回外に出てから、じゃあ利根町はどうするのがいいのかなという話はこの前ワークショップでしたようなので、やっぱり交通の便は非常に大きいかなっていう気がしております。以上です。

会 長： ありがとうございます。交通関係の話がありましたのでお願いします。

委 員： はい。先ほどからのテーマでも交通が最重要課題、またはネックになってしまっていることに対して、交通事業者として反省といいますか、しみじみ考えさせられる部分が多いです。他の近隣民間バス事業者が運賃値上げしまして、弊社の方は消費税改定以外は運賃の値上げはしておりません。そういってもですね、お隣の方が安いんだよとか、そういったご意見もありますし、うちの方も民間でやっていく中で、とり

あえず費用対効果の中で続けていけるのかっていうのがすごく今最大のネックとなっている部分もありまして、利根町さんとも交通政策の会議を通じまして、全面的に弊社民間企業と、あとは町の交通網と合わせてという形が一番求められる形なのか、交通政策会議の方で議論を進めていって、利根町から離れてしまう最大の原因が交通事業というふうにすごく重く受け止めていますので、一緒に考えていきたいと思います。

会 長 : ありがとうございます。真摯なお言葉を賜りまして、本当にありがとうございます。事務局の方からは。

事 務 局 : はい。公共交通に関するワークショップも4地区でやりまして、4地区それぞれ使いたい場所も違いますし、その辺りが難しいところで。今ちょうど分断されてるような形に。利根町、布川地区のほうと、文地区のほうと分断されているような部分ですね、それをどうにか一緒にするような形にするのか。その辺を民間のバス会社さんと町で行っているふれあいタクシー、福ちゃん号、コミュニティバス、この辺もいろいろ考えながら、今後検討していきたいなと思っております。これまで実施したアンケートを分析して、会議の方でいろいろ報告をしていただいて、これからある程度上がってくるようになりますので、そこからまた話し合いを行って、町民の方にもお示しをして、ご意見をまたいただきたいというふうに考えています。よろしくお願いいたします。

会 長 : ありがとうございます。お願いいたします。一旦ここで次の議題に移らせていただきます。

(3) 第5次利根町総合振興計画後期基本計画策定にあたっての課題の整理

会 長 : 議題の3ですが、第5次利根町総合振興計画後期基本計画策定にあたっての課題の整理でございます。説明をお願いします。

コ ン サ ル 《資料に基づき説明》

コ ン サ ル : 49ページの少し中ぐらいですね。本庁の諸条件の整理からというところの文章の5段目。現在では1万5,340人とピーク時から比較して74.8%人口の減となっておりますが逆で、全体の74.8%になっているということでございますので、訂正させていただきます。

会 長 : さすがに5,000人になっているわけじゃないと思います。皆さんよろしいでしょうか。49ページの訂正ご説明をお願いします。ご説明ありがとうございました。並びにこちらの方が25.2%減ということになりますね。
今ご説明いただきました案件につきまして、何かご意見・ご質問ありますか。

委 員 : 素朴な疑問なんですけれども、よろしいですか。アンケートについて、回収率29%となっておりますが、回収数はどれくらいを想定していたのか。また、回収率が満足いくものだったのか、信頼性に繋がる数字ってどれくらいなのかをお聞きかせ願いたいです。

コ ン サ ル : 信頼度になりますが、いわゆるアンケートというのは、一般的に富士山への挑戦なんですね。多く取れば取るほどいいというのではなくて、一定程度あれば、標本誤差としては有効性があるというふうに言われております。標本誤差というのは3%~5%以内であれば良いというふうにされておりますが、5%の場合は確か993票あればいい。標本誤差5%の場合は374票ということで、今回577票あるので4%に近いという形になります。ですので、結果としてある程度統計学的に見ても信頼性があります。以上でございます。

会 長 : ありがとうございます。
その他いかがですか。

委 員 : よろしいですか。行政の関係で申し上げたいと思うんですが、今後利根町がどの方向に進んでいくにしても、町の財政状況がどうなのかっていうことが一番大きな問題になるんじゃないかなと思ひまして。今回財政状況ということで、例えば43ページ以降にいろいろ資料を載せていただいておりますが、例えば43ページの下の方の経常収支比率ということで、これだけを見るとここ1年・2年で、私から見るとものすごく改善してるような印象を受けまして。失礼ですけども、本当にそうかなと思ひまして、今手元で見ていたんですが、次の年になると、また90ぐらいに悪化していますので、最新の数字を委員の方に提示した方が、誤解を与えないのではないかなと。次の年度のものを出示していただけると、あまり誤解を与えないといひますか。この43ページの一番上のリード文のところで、その財政の健全化が進んでいますと言い切っていますけれども、少し言い過ぎではないかなという印象を受けました。ご検討いただければと思います。

会 長 : 貴重なご意見ありがとうございます。事務局の方から経常収支比率、もし最新のものが分かりましたら。

事 務 局 : おっしゃる通り、経常収支比率の場合は建設事業の事業費が大きければ、その分比率が下がってくる。今回の場合、2020年度、2021年度はおそらく改修事業、恐ら

く統合関係の予算があって、経常収支比率が改善されている印象があります。こちらについては検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

会 長：ありがとうございます。経常収支比率っていう言葉、事務局のほうで分かりやすく説明していただけますか。

事 務 局：はい。給料などの義務的経費と呼ばれる費用と、道路改良工事などのインフラ整備をするような事業の合算の割合とか。年度の決算額の中で、経常的に支出する割合が何%あるのか。20年度、21年度は建設の臨時的経費の部分も入っているので、おそらく経常収支比率っていうのは、数字が下がってくる。経常的に支出する分は少ないわけですから。全体の決算額よりは、臨時的な経費があるので、割合が少なくなってきた。この辺については、(用語の解説としては)一応43ページの下「地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標で、人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費に充当された一般財源の額が、地方税、普通交付税を中心とする毎年度経常的に収入される一般財源、減収補てん債特例分及び臨時財政対策債の合計額に占める割合」となっています。

委 員：この数字が低ければ、比較的財政に余裕があるとか、そういうふうに考えていただければ。

会 長：そうですね。結構難しく書いてあるので分かりにくいんですけども、よく学生に話をするときは、この数値が高いっていうことはそもそも人件費とか決まったお金の割合が高いので、他のことはできないっていうことなんですね。ですからこの割合が低いと、いろんなことができるっていうことで、要は低い方がいろんなことが町としてできると。余裕があるということで。そういうことで、先ほどご提案いただきました、最新のやつを出してくださいというのは、最新として町はどれぐらい余裕があるのか教えてくださいということなんです。

副 会 長：自治会活動の件だけ最後にもう一度言わせてください。今、国の高齢化率が3割くらいですよね。で、利根町の高齢化率が約45%です。ところが、このニュータウンの高齢化率、早尾台は60%なんです。もうびっくりします。そういう中で、自治会活動ができなくなってきたんです。例えば毎月一回配られる町の広報紙とか、回覧物を皆さん、処置をしなければならないんですね。600戸近く、団地の中に家があるんですが、それに全部宅配をしなければならないわけです。それはもう最低限の仕事なんですけど、それ以外にもたくさんあります。ニュータウンの団地がみんな同じような問題で悩んでいるんだったら、共通のプラットフォームみたいな、NPOのようなところを設置して、そこが全体を面倒見る方向に持っていけないかなと感じています。

大学の先生たちが入っている学会というのがありますが、いろんな大学の先生が会員で参加しています。昔は各大学の先生が事務局をやっていました。ところが最近多くの学会がそれができなくなってきたんです。学校の先生も非常に忙しくなってきた、民間企業が事務局を担っているんです。お金を取って。ある意味自治会活動もそういう方向に進んでいかないと、どこかで考えて欲しいと思います。以上です。

委 員：よろしいですか。その辺に関しては、町を含めて輸送したり、いろいろな部分で検討できないのかっていうのも出ているんですね。やはり全体的に高齢化になっていて難しいので。それは町で取り入れて話をしようかっていうのは出てきている。

会 長：ありがとうございます。

副 会 長 : もちろん町のホームページで例えば広報紙は読めるんですよ。だけどインターネットを使えない方もたくさんいらっしゃるということで、配らざるを得ないということですね。

会 長 : 最終的にね、高齢化もそもそも進んでますけれども、高齢化という話になるとやっぱお金が足りないということが出てきます。様々な問題があります。先ほどの43ページでは、財政力指数という言葉もかなり自治体の指標においては非常に有名です。財政力指数ってなかなか難しいこと書いてありますから。例えば、1万円必要なのに自分で稼いでくるお金っていくらですかって話です。ですから、例えば本当は1万円必要なんですけど、自分で稼いでくるお金が例えば利根町の場合は0.41と書いてあれば、4,100円だという話ですよ。あとは交付税とか補助金とかでもらっているってことになりますので大学生だったらわかりやすいんです。自分で稼いだアルバイト代は4,100円で、あとは親からもらってるっていう、そういう説明をするんです。ですからそういう意味では、この数値っていうのも低いんじゃないかというふうに思われるかもせん。

ですからそういう意味では、基本的に各市町村が4割ぐらいしか実際自分で稼げないっていうことで、かつては3割自治という言葉を使いましたが、現在4割自治というふうに言葉を使います。そういうこととまさにこの話は関係しているということで、ご理解いただければと思います。今お金の話ばかりやっていて、非常にあれなんですけども、そういう意味ではですね、せっかくですから、金融関係の委員の方、ぜひ何かお金の話で、知見であるとか、そういったことを賜ればと思いますのでよろしく願いいたします。

委 員 : よろしくお祈いします。私も二週間前に着任いたしましたので、今日は利根町のいろんな現状と課題を知るために、非常に勉強になりました。ありがとうございました。お金の話はわかりませんが、人口のところで、利根町は過疎法に基づく過疎地域に指定されている状況と書いてあるんですけども、これは具体的に何パーセント以上になると過疎地域になるんですか。それと、今後の人口見込みとか概算とかってというのは5年後とか10年後とかって数字とかってというのはあるんですか。分かれば参考までにお聞きしたいなっていうのがあります。

会 長 : 町の予測として出ておりまして、日本全国だと社人研というのがあります。国立社会保障・人口問題研究所というのがあります。そこが全国のやつを出しておりますので、利根町もちゃんとお持ちです。これに関してはコピーか何か出した方が早いかもしれないですね。

事 務 局 : そうですね。将来人口の方なんですけれども、2020年、これが1万5,340人って書いてあると思うんですけども、2025年はですね、1万4,043人。2030年の将来人口が1万2,490人で、2035年は1万1,597人。2040年が1万270人。2045年が9,104人。2050年が8,130人。2055年が7,290人。2060年が6,516人。そういうような人口となっています。

会 長 : もしご詳細であれば、多分資料ありますよね。

副 会 長 : 過疎地域の要件というのはネットですぐ検索可能です。そちらをお願いします。

事 務 局 : 副会長から一応要件についてネットでも確認できますよとご意見いただいたんですけど、事務局より利根町の実態を申し上げますと、過疎法では人口要件というのがあります。人口の減少率と、あと財政力指数、この二つを要件に、過疎に指定されると法

律で決まっています。人口要件には3タイプの要件があるんですけど、利根町の場合ですと、平成2年から平成27年の25年間のうちに、人口減少率が21%以上であることという要件がございますので、利根町で見ますと国勢調査の結果の人口で平成2年が2万5111人。平成27年が1万6,313人。この25年間で、人口増減率ということでマイナス20.4671%。これを四捨五入しますと21%になるということで、人口要件を満たしております。また、財政力要件でございますけれども、平成25年度から令和元年度の3年間の財政力の平均が0.51以下であること、ということでございますので、利根町で見ますとこの3年間の平均が0.43ということで、この二つをいずれも満たしたことから、過疎地域に指定されているという状況でございます。

会 長： よろしいでしょうか。

委 員： はい。

会 長： 様々な問題がありまして。そのときは東京駅から50キロ圏で唯一の過疎特措法に基づく過疎地に指定されたっていうのは非常に新聞等で話題になりました。そういう点では利根町は東京駅から非常に近いところだなということも、逆に話題になったかなというふうに思います。一応ですね、私からぜひお願いしたいのは、安全安心という点では、満足度というところでも、災害時の防災体制の充実であるとか、あるいはこれ7ページですか、16ページの方でも、災害時の防災対策に関しましては、やはりですね、先ほど町内会自治会というのが非常に衰退して、機能しなくなっただと。そうすると消防団とかそういうものを議論しなくなっています。そこでですね、もしよろしければ、消防関連の委員の方、もしそういったことも含めまして、今日のこともお話いただければと思うんですが。

委 員： はい。利根町の場合はやっぱり災害で一番怖いのは、高台は少ないんですけども、高台の崖崩れのところが怖い。あと水害。その二点ですね。一番大きな災害、台風が来ても、一昨年ぐらいから利根町の場合は牛久市と提携して牛久に避難することになっていると思うんですけど、なかなかそれは現実的に行くかというのは不安なんですけども。私は3年前に着任したときにちょうど会議がありまして、各区長さんから皆さん避難できましたかっていう連絡を作る訓練をしていると思うので。もし決壊して、全員避難したりしなくちゃいけないっていうときに、全員避難しましたよっていうのが役所の方ではわかるようであればと思っています。そこまでいかなくても、がけ崩れの危険がある門馬地区、あと早尾地区の下ですね。あの辺のやつを徹底的に安全になるようにしていきたいと思っています。以上です。

会 長： ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。議題3でお話を伺いたいという方は。

委 員： ワークショップを拝見いたしまして、非常に良い流れでまずは町民それから中学生っていう流れがあって、情報も引き継ぎながらやられたというプロセスがあったんだなと思いました。その中で一つだけ最初に町民のワークショップのときに、いろんな情報を提供されているんですけど、例えばワークショップの実施参考資料2の13ページで、話し合いのヒント（情報提供）ということで、そこからのいくつか情報提供されておられました。ここは私非常に良かったんだろうなと思っています。これが一つ質問なんですけど、例えば人口10万人当たり換算での図書館数のベスト1なんですね。茨城県で。こういうことがすごく気づきになったと思うんですね。最初にワークショップでやったのが。その後の事業所数ですとか、町の幸福度ですとか、14ページにかけて、こういう情報があったんですけど、これは中学生のほうにも伝えられたんでしょうか。

この資料集からいくと、特に中学生もスライドっていうかパワーポイントの資料の中にもないようなんですけど、多分伝えられたので、結果的に図書館にカフェを作って欲しいとか、そういうようなことも出てきているので、伝わったんだろうと思うんですけど、どうだったんでしょうか。

会 長： いかがですか。よろしくお願いします。

コ ン サ ル： 中学生ワークショップの方では時間の関係上もありまして、ここの情報提供はしてございません。あと図書館数一応ベストワンなんですけど、この説明するときにも補足させていただいているんですが、そもそも人口が少ないっていうのがあるので、ベスト1にはなってるんですけどっていう補足の説明をさせていただきました。

委 員： 分かりました。一つだけ。これよかったなと思うことがあるのでお伝えしたい。図書館関係で2階にコワーキングスペースっていうのはできていまして、それで私最近こういう経験をしまして。パソコンも操作しながら相談したいっていう我孫子の知人がいまして、どこでやるってなったときに、図書館の2階のワーキングスペースを使わせていただいたら、大変喜んでいただきました。飲み物も、蓋をできるペットボトル等の飲み物ならそこで飲んでもいい場所だったので、子供の居場所作りとか、審議会の中で審議する内容にも関係すると思うので、嬉しかったのでご報告でした。

会 長： ありがとうございます。事務局からは何かありますか。

コ ン サ ル： 先ほどの捕捉になりますが、中学生ワークショップでは1回目でそういったその情報提供をしていないのですが、ゲームをすることによって、人口と財政、幸福度とある中で町を運営していく上で、いろんなことをやりたいけどそれはお金がかかって、要はトレードオフになりますよっていう前提を分かってもらうためにゲームをしてもらって、その上で2回目で自分たちの町に必要なものを考えてもらうっていうステップにしました。そういったこともあって、中学生はまちづくりを俯瞰して考えてもらえたのかなというふうに考えております。

会 長： 他に何かご意見ご質問。一応とりあえず議題の3でありますか。もしないようであれば一応、1から3の議題が全て終了したということになりますが、最後にですね、1から3通して含めて、これは言っておきたいとか、どうしてもこれはお話ししたいという委員の方がいらっしゃいましたら、一応この場で何かお話いただければと思いますが、いかがですか。

委 員： よろしいですか。転入者が増えたっていうグラフですけど。この人たちが何で利根町にわざわざ来たのかということですね。つまり転入理由。それから年齢とか、子供がいるとかいないとかっていう。今すぐそれをどうこうっていうことは無理かもしれないですけど、これって案外貴重な資料になるのかなと。私が平成5年に来たときは、自分の勤務地が藤代の学校だったので、それでマンションができると、そしてそんなに高くない。よし、ここにしようっていういわゆる職住接近が理由だったので、だからその理由って重要かなというのがあります。それともう一個。統合した学校の本ってどういうふうになったんでしょうか、学校図書館の本。つまり、複数の小学校があって、中学校もあって、そうしたときに、蔵書があるじゃないですか。もちろんそれは新しくはないのかもしれないけど、それは今の例えば布川小学校とか、それから利根中とかに合わさったのか。以上です。

事 務 局： 図書館については、学校のほうに学校の司書さんがおりまして、その方が廃校になる

学校の方の綺麗な本だったりとか、必要な本を小学校とか中学校のほうに新しく入れ替えたりするような形で統合の前の1年間に色々やっていただきました。統合のときには、必要な本については、新しい学校の方に持っていつてもらっている状況です。古いものについては文間小学校が教育センターになりますので、そこには図書館の方もそのまま本を整備するような形で活用するような話は伺っています。

会 長： 転入の理由については。

事務局： 資料31ページについて説明させていただきますと、こちらのグラフ見ていただくと2017年から少し転入が増えてるという状況になってるかと思います。これは転入転出等増えている理由としましては主に外国人の方である状況となっています。その理由なんですけれども、日本ウェルネススポーツ大学ですとか、あと日本語学校である利根国際学院への、外国人学生と転入ということになっておりますが、羽根野地区に外国人技能実習生を受け入れる施設というものがございまして、こちらの施設は外国人を受け入れる企業へ配属する前に、短期間で教育面では日本語による会話ですとか、コミュニケーション、集会には礼儀作法なんかについていうのも、日本の礼儀作法を実践を通して学習させているという会社があります。その外国人の方が、短期間で転入転出をしているという状況でありました。こちらのグラフを見ていただくと、2019年から2020年にかけて減少しているという状況を確認していただけるかと思うんですけれども、これはやはりコロナ禍の影響というところになってるかと思います。2021年以降からまた転入が増えてきているという状況になっています。これはコロナ禍が明けたというところから、先ほど申し上げた外国人の方の同じ理由で増えつつあるというところなんですけれども、令和5年度がまた急激に転入者が多くなっているという状況が確認できたと思うんですけれども、こちらにつきましては、ウェルネス大学で外国人の方の短期留学生ということで、約500人程度入学されております。そのうち利根町内にも住んでいる方が多くおりますので、そのことによって、転出者数よりも転入者数が多くなっているという状況です。以上です。

会 長： ありがとうございます。
その他いかがでしょうか。

委 員： よろしいですか。交通の話で、他の自治体の事例でお話させていただければと思うんですけれども。ただ民間の事業者さんですので、できるかできないかでは置いておいてなんですけれども。例えば通学圏とか出勤の多い早朝とか夕方の時間帯だけ決まった路線を走ってそれ以外の、要は高齢者の方々とかが、日中帯利用されるときに、乗り合いとかオンデマンドのバスとして走らせるっていうようなことをやったりとかするのでそういうところでデジタルがもし活用できれば。できるかどうかは別の話ですけれども、一応そういうような事例もあります。自治会の運用でっていうようなお話もされていましたが、例えば回覧板とか広報を配るっていう作業も、例えばそのオンラインのデジタル回覧板みたいなものを購入して、アプリで全員が見れますよとか。そういう作業を減らしたりとか、自治体のアプリっていうのも専用のアプリとかあったりするので、なんか一応そういうデジタルを活用して楽にしようという、DXをやっている自治体とその事例を今後紹介できればと思うので。今キーワードで、簡単な紹介でした。以上です。

会 長： ありがとうございます。ではお時間の方も参りましたので、皆さま、どうも慎重なるご審議ありがとうございました。今後ともご協力いただきたいと思います。では事務局にお返ししたいと思います。

4. その他

事務局： 会長ありがとうございました。それでは次第に移りまして、次第4その他でございますが、皆さまから何かございますでしょうか。

ないようでしたら、事務局より次回の審議会についてご案内させていただきたいと思います。次回の審議会は、6月下旬を予定しております。正確な日程については、改めて開催通知の方でお知らせしたいと思いますが、次回の審議会は6月下旬を予定しております。皆さまぜひご出席くださるよう、よろしくお願いしたいと思います。以上です。

5. 閉会

事務局： 以上をもちまして、令和6年度第1回利根町総合振興計画審議会を閉会とさせていただきます。皆さま長時間にわたりまして、お疲れ様でした。